

# 検討課題に対する第1専門委員会委員の検討状況・方向性

## 1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

平成18年11月1日

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>1学年当たりの適正な学級数</p> <p>(ア)市部、町村部の高校のそれぞれの望ましい学級数</p> <p>(イ)普通高校、職業高校、総合学科の高校のそれぞれの望ましい学級数</p>	<p>教育の機会均等という事と共に、青森県の高校教育の水準・環境の維持・向上という視点が必要。そのためには教員配置を重要な条件として考えなければならないと考える。</p> <p>そのためには、市部・郡部共に学校配置を見直しながら、現実の生徒の入学状況や地域性を考慮することで、市部と町村部の基準を分けて考えることとし、以下のような学校規模が望ましいと考える。</p> <p>【市部について】</p> <p>普通科(進学校)...6～7学級                      普通科...4～6学級                      総合学科...4学級以上                      職業学科...4～8学級</p> <p>【町村部について】</p> <p>普通科...3～4学級 最低限2学級                      総合学科...4学級以上                      職業学科...4学級以上                      分校...どうしてもやむを得ない所のみ特色を持たせて存続させる。</p>	<p>専門高校、総合学科の高校の適正学級数については、各校、各地域によって条件が違い一律に規模を決めることは難しい状況にあると考える。</p> <p>工業高校については、機械系、建設系、電気系の基本3学科、1学科1学級を基本としたいとの意見が多数である。また、工業系高校へは志願者も多く、中学生のニーズに応えるような学級数にすべきとの意見もあった。</p> <p>【市部について】</p> <p>普通科...6～8学級(受験指導に対応可能な教員数)                      総合学科...4～6学級(選択科目の確保)                      専門高校...4～6学級(学科毎に最低1学級必要)</p> <p>【町村部について】</p> <p>普通科...4学級(2～3学級もやむを得ない)                      総合学科...4学級                      専門高校...4学級</p>
<p>普通科と職業学科と総合学科の在り方</p> <p>(ア)普通科、職業学科、総合学科の目指す役割</p>	<p>普通科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの保護者及び生徒はまず普通高校へ進学したいと考える現状、及び全国の割合との乖離を考えると、普通科を増やしても良いのではないかと。</li> <li>・単純に数合わせで優先する事には疑問がある。</li> </ul> <p>職業学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県としての施策、地域の産業構造やニーズ、これまでの実績等を考えると、職業高校というだけで安易な統廃合はすべきではない。</li> <li>・現在の社会状況・ニーズに合わない学科や似たような学科については再編することで、より水準の高い技術力を持った生徒を育成する必要がある。</li> </ul>	<p>普通科</p> <p>普通教育に関する各教科・科目の学習を通して、各教科の基礎学力や広い教養を身に付けさせて上級学校への進学に対応できる。</p> <p>職業学科</p> <p>生徒の興味・関心・適性に応じた学科選択により、専門教育に関する各教科・科目の学習を通して、専門教育の基礎を培うとともに、資格取得や職場体験等により職業意識を形成し、産業社会の人材を育成する。</p>

# 1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(イ)全県の視野での、普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合</p>	<p>総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育により望ましい職業観を与えるという部分と、進学指導の部分の両方を取り入れる事で進路に悩んでいる生徒に対応できるのであれば、理想的であり今後の一つの方向性となるのではないかと。</li> <li>・現状としては、生徒の選択肢を広げるために付随する施設・整備や人員の配置は厳しい状況が見られる。</li> <li>・これまでの実績等を検証し、特徴と意義を鮮明にする必要がある。</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科、職業学科、総合学科それぞれの校種の役割を明確にして行くと同時に、生徒の進学意識の啓蒙が必要ではないかと。</li> <li>・割合については自然に決まるものであり、学科等の見直しを進める中で自然と学級減を進めるのが理想的である。</li> <li>・しかし、保護者・生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やす等、何らかの方向性を打ち出してもよいのではないかと。</li> <li>・職業学科及び総合学科については各地区毎に設置するべきと考えるが、雇用状況等を学科・コースの編成に反映させる努力が必要である。</li> </ul>	<p>総合学科</p> <p>生徒の興味・関心・適性に応じて、幅広く教科科目を選択して学習し、自己の進路を見つけ出し、普通及び専門に関する基礎を培い、就職・進学に対応できる。</p> <p>本県の大学等進学率が上昇傾向にあり、また、中学生や保護者を対象とした調査結果では普通科の希望が高いことから、今後、普通科の割合を漸増する必要がある。</p> <p>地区毎の募集割合については、地区毎の特徴や状況等を十分踏まえ、地区毎の違いがあってもよい。</p> <p>また、生徒の通学範囲内に普通科、専門学科、総合学科を配置するという観点から学科を設置していくことが望ましい。</p>